

參考資料

1 アンケート用紙

国際ユニヴァーサルデザイン協議会(以下IAUD)の情報保障委員会では、情報保障に関するガイドラインを作成しています。
 このたびIAUDより委託を受け、聴覚障害者の方たちが各種イベント(講演会、演劇、シンポジウム等)に楽しんで参加していただけるようなガイドラインを作成するための基礎的な調査を行うこととなりました。
 個人情報は厳守いたします。ご協力お願いいたします。

2005年2月 アルモ設計

NO. _____

現在の年齢 _____ 歳 男 女

ご職業 _____

仕事の内容 (_____)

障害の状況 先天 中途
 ↳ 聞こえなくなった年齢 _____ 歳

障害の種類 伝音性 感音性 混合性

聴力 130dB以上 130 ~ 100dB 100 ~ 60dB 60 ~ 0dB

補聴器は 使っている 使っていない
 ↳ 使用時の聴力は?
130dB以上 130 ~ 100dB 100 ~ 60dB 60 ~ 0dB

使っている機器(複数回答)

TEL FAX パソコンメール 携帯メール

情報保障関連機器

その他 (_____)

問 1. 日常生活についてお教えてください。

日常、誰と会話することが多いですか？その方とのやり取り手段は何ですか？よく会話する人(間柄)を5名上げ、例を参考に下記の表を埋めてください。

間柄	聴力の程度	やり取り手段	便利さ
例： 父親	<input checked="" type="checkbox"/> 健聴者	<input type="checkbox"/> 日本手話(JSL) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語対应手話(SJ)	<input checked="" type="checkbox"/> よい
	<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 口話(読話) <input type="checkbox"/> 筆談	<input type="checkbox"/> わるい
		<input type="checkbox"/> その他 []	
	<input type="checkbox"/> 健聴者	<input type="checkbox"/> 日本手話(JSL) <input type="checkbox"/> 日本語対应手話(SJ)	<input type="checkbox"/> よい
	<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 口話(読話) <input type="checkbox"/> 筆談	<input type="checkbox"/> わるい
		<input type="checkbox"/> その他 []	
	<input type="checkbox"/> 健聴者	<input type="checkbox"/> 日本手話(JSL) <input type="checkbox"/> 日本語対应手話(SJ)	<input type="checkbox"/> よい
<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 口話(読話) <input type="checkbox"/> 筆談	<input type="checkbox"/> わるい	
	<input type="checkbox"/> その他 []		
<input type="checkbox"/> 健聴者	<input type="checkbox"/> 日本手話(JSL) <input type="checkbox"/> 日本語対应手話(SJ)	<input type="checkbox"/> よい	
<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 口話(読話) <input type="checkbox"/> 筆談	<input type="checkbox"/> わるい	
	<input type="checkbox"/> その他 []		
<input type="checkbox"/> 健聴者	<input type="checkbox"/> 日本手話(JSL) <input type="checkbox"/> 日本語対应手話(SJ)	<input type="checkbox"/> よい	
<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 口話(読話) <input type="checkbox"/> 筆談	<input type="checkbox"/> わるい	
	<input type="checkbox"/> その他 []		
<input type="checkbox"/> 健聴者	<input type="checkbox"/> 日本手話(JSL) <input type="checkbox"/> 日本語対应手話(SJ)	<input type="checkbox"/> よい	
<input type="checkbox"/> 聴覚障害者	<input type="checkbox"/> 口話(読話) <input type="checkbox"/> 筆談	<input type="checkbox"/> わるい	
	<input type="checkbox"/> その他 []		

問 2. 情報の収集方法についてお教えてください。

2-1. 各種イベント(講演会、演劇、シンポジウム等)や趣味の集まりなどに参加するのは、好きですか？

大好き 好き 普通 あまり好きではない 嫌い

2-2. 各種イベント(講演会、演劇、シンポジウム等)や趣味の集まりなどの情報は、どのような方法で入手しますか？

情報誌 TV(文字) インターネット DM 知人から

その他 []

問 3. 出かける時に準備すること、また、出かけることについての不安・心配はありませんか？

[]

問 4. 出かけた先でのやり取りの手段についてお教えてください。

4-1. 下記のような場所に参加することはありますか？その場合において、自分の意思・意見を伝える方法、相手の意見や周りの話を理解する方法はどのようにしていますか？
健聴者と同席することを想定してください。 (複数回答)

少人数(2~5人)程度での話し合い → よく参加する あまり参加しない

日本手話 日本語対应手話 口話(読話) 筆談 補聴器を使う

要約筆記 パソコンの活用 その他 []

教室型セミナー(学校の授業、パソコン教室など) → よく参加する あまり参加しない

日本手話 日本語対应手話 口話(読話) 筆談 補聴器を使う

要約筆記 パソコンの活用 その他 []

講演会 (ホールのような広い場所で話を聞く場合、質疑応答をする場合。)

→ よく参加する あまり参加しない

日本手話 日本語対应手話 口話(読話) 筆談 補聴器を使う

要約筆記 パソコンの活用 その他 []

映画、演劇、コンサート → よく参加する あまり参加しない

字幕(洋画) 文字情報 日本手話 日本語対应手話 補聴器を使う

口話(読話) 要約筆記 その他 []

その他(よく出かける場所等あればご記入ください)

出かける場所 []

日本手話 日本語対应手話 口話(読話) 筆談 字幕 補聴器を使う

要約筆記 パソコンの活用 その他 []

4-2. 上記設問で手話通訳や要約筆記を使う場合、現状誰が手配していますか？
また、誰が準備することが妥当だと考えますか？

少人数(2～5人)程度での話し合い

現 状: 自分 主催者 その他 {
希 望: 自分 主催者 その他 {

教室セミナー(学校の授業、パソコン教室など)

現 状: 自分 主催者 その他 {
希 望: 自分 主催者 その他 {

講演会 (ホールのような広い場所で話を聞く場合。質疑応答など)

現 状: 自分 主催者 その他 {
希 望: 自分 主催者 その他 {

映画、演劇、コンサート

現 状: 自分 主催者 その他 {
希 望: 自分 主催者 その他 {

その他 {

現 状: 自分 主催者 その他 {
希 望: 自分 主催者 その他 {

4-3. 個人的に手話通訳をお願いする場合、費用はどうしていますか？

無料(ボランティア) 有料 (円/回)

問 5. 各種講演会や公演などに出かけた際のホールに関することについてお教えてください。

5-1. 講演会に出かけた際、あなたはどこの席に座りますか？



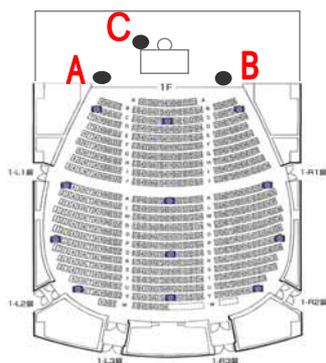
・通訳者がいない場合

- A B C D E
 F G H I
 特に決めていない

・通訳者がいる場合

- A B C D E
 F G H I
 特に決めていない

5-2. 講演会等で通訳をつける場合、どの位置に通訳者がいることが望ましいですか？



- 自分の横
 ステージ上向かって左側(図A点)
 ステージ上向かって右側(図B点)
 発表者の横(図C点)
 その他

()

5-3. 字幕電光掲示板が設置してある講演会・公演では、電光掲示板がどこに設置されていると見やすいですか？

- 1 2 3 4 特にこだわらない



5-4. 会場に手話通訳専用の席があったら、積極的に利用しますか？

はい いいえ

その理由を聞かせてください。

[]

問 6. 今までに行ったことのある講演会、公演等で、良かったものや良かった場所があればお教えてください。

[]

問 7. 向こう2ヶ月の間に、出かけた、又は出かけようと思っている講演会などのイベントがあればお教えてください。

[]

問 8. その他、何かご要望等があれば自由にお書きください。

[]

以上です。 ご協力ありがとうございました。

2 アンケートに使用した用語について

PDAに関して

PDAとは、Personal Digital AssistantもしくはPersonal Data Assistantの略称で、アップルコンピュータのCEO兼ペブシコーラの社長だったジョン・スカリーによる造語。日本語では、携帯情報端末(けいたいじょうほうたんまつ)。スケジュール・ToDo・住所録・メモなどの情報を携帯して扱うための小型機器を言う。ノートパソコンと比べると機能は限定されているが、手のひらサイズのため持ち歩きやすく、電子手帳よりもソフトウェアのインストールやカスタマイズが可能な点で自由な運用が可能となっている。近年では、ノートパソコンの小型化、携帯電話等の高機能化により市場は縮小傾向にある。



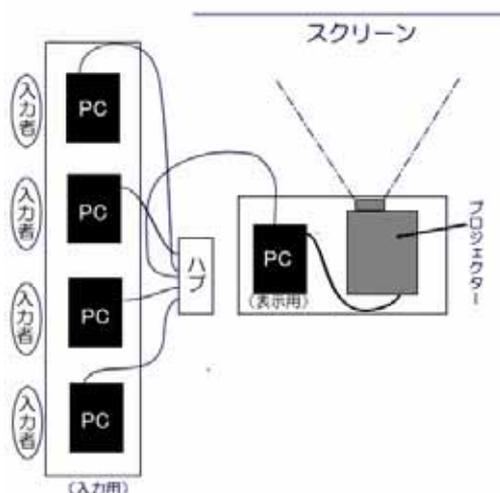
PDA参考写真

IP TALKに関して

IP TALKとは、パソコンを用いリアルタイムに文字入力をしたり、事前に準備した文章を表示することで、聞こえに障害のある方のコミュニケーションを助けるボランティア活動用のソフト。例えば、パソコン要約筆記等。



IP TALK参考写真



講演会等での使用例図解

3 調査写真(3/28)



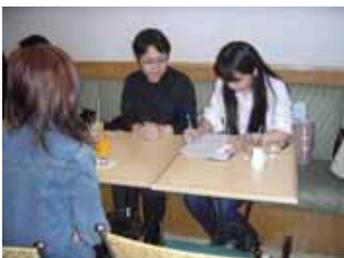


参考資料





3 調査写真(4/9)





4 事例調査(1. 耳の日文化祭)

耳の日記念文化祭

日時:2005年3月5日(土)6日(日)

場所:東京都障害者福祉会館 ほか

ホール企画 パネルディスカッション

「考えよう防災の備え、確保しよう情報保障」



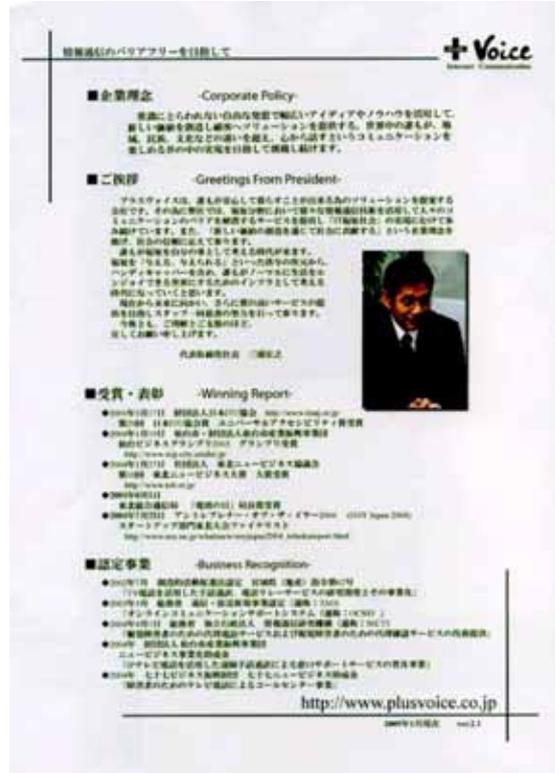
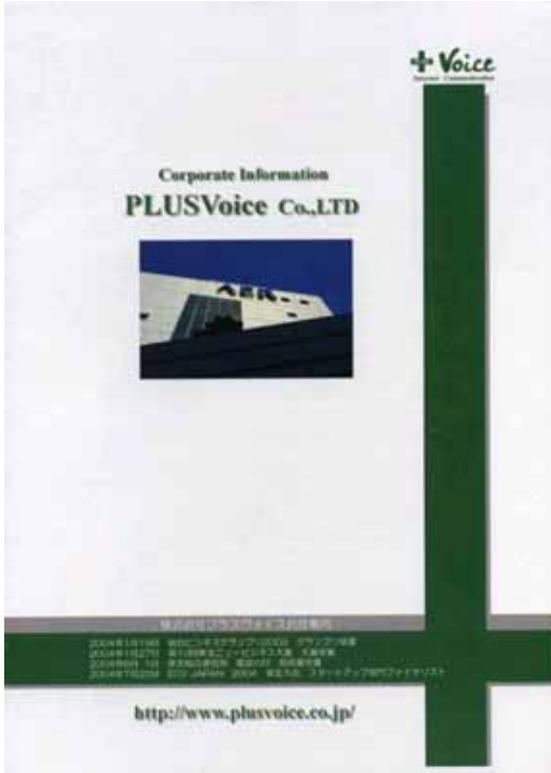
第34回
耳の日記念文化祭

■と き:2005年3月5日(土) 3月6日(日)
■と ころ:東京都障害者福祉会館 他

考えよう防災の備え、確保しよう情報保障

■主催:社団法人東京都聴覚障害者連盟
■協力:
NPO法人東京都中途失聴 聴覚者協会
社会福祉法人東京聴覚障害者福祉事業協会(たけしるの郷)後援会
東京聴覚障害者自立支援センター 東京都手話通訳問題研究会
東京都手話サークル連絡協議会 東京都契約筆記サークル連絡会
東京都ろう者友の会 東京ろう重聴者とおゆわい会 みみより会
全国契約筆記問題研究会東京支部
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 (協栄ビル) 10F

4 事例調査(2. 企業訪問:株式会社プラスヴォイス)



河北新報掲載 2004年4月2日掲載

私たちの「言葉」
— 手話はいま —

TV電話で手話の導入も
「手話の導入も、NTTのテレビ電話が大きな役割を果たしている。NTTのテレビ電話は、音声だけでなく、手話も伝達できる。これは、聴覚障害者のコミュニケーションに大きな貢献をしている。NTTのテレビ電話は、音声だけでなく、手話も伝達できる。これは、聴覚障害者のコミュニケーションに大きな貢献をしている。NTTのテレビ電話は、音声だけでなく、手話も伝達できる。これは、聴覚障害者のコミュニケーションに大きな貢献をしている。

社会参加の道広げる

直接の会話交換
「手話の導入も、NTTのテレビ電話が大きな役割を果たしている。NTTのテレビ電話は、音声だけでなく、手話も伝達できる。これは、聴覚障害者のコミュニケーションに大きな貢献をしている。NTTのテレビ電話は、音声だけでなく、手話も伝達できる。これは、聴覚障害者のコミュニケーションに大きな貢献をしている。NTTのテレビ電話は、音声だけでなく、手話も伝達できる。これは、聴覚障害者のコミュニケーションに大きな貢献をしている。」

Page 7 <http://www.plusvoice.co.jp/>

第39回 耳の日記念福祉まつり (宮城県岩沼市)

2004年3月7日に「第39回耳の日記念福祉まつり」が宮城県岩沼市で開催されました。弊社はNTT東北日本支店、NTT-ME東北支店と共同で出展し、聴覚障害者の暮らしの中でのテレビ電話を提案させて頂きました。NTT社の協力により会場から、弊社事務局と聴覚障害者らあふ福祉大会会場でプロドバンド回線で、つなごう会館の文字と手話を体験して頂きました。(写真で撮影済み)

視聴覚の福祉ろうあ者福祉大会会場の来場者と話す。画面を越えた手話を使ったテレビ電話は大きな反響がありました。会場にいる気配や顔色と書き伝える喜びも。

宮城で耳の日記念福祉まつり
福祉ろうあ者福祉大会 個人動員
テレビ電話で手話通話体験

電波新聞 04年3月7日掲載

Page 8 <http://www.plusvoice.co.jp/>

(財)全日本ろうあ連盟 季刊みみ第102号

財団法人全日本ろうあ連盟発行の季刊誌「MIMIみみ」に、「時代は最先端へ」をテーマにした通信連載「サウナと手話」が掲載されています。この連載は、聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。

MIMI 季刊みみ 2003 No.102 WINTER

「サウナと手話」の連載が掲載されています。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。

「サウナと手話」の連載が掲載されています。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。

Page 9 <http://www.plusvoice.co.jp/>

電波新聞掲載 2004年2月13日掲載

聴覚障害者の情報格差を是正
ITと手話で橋渡し
連絡手段 病院にも導入

「聴覚障害者の情報格差を是正」をテーマにした通信連載「サウナと手話」が掲載されています。この連載は、聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。

「聴覚障害者の情報格差を是正」をテーマにした通信連載「サウナと手話」が掲載されています。この連載は、聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。

「聴覚障害者の情報格差を是正」をテーマにした通信連載「サウナと手話」が掲載されています。この連載は、聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。聴覚障害者の生活に密着した内容です。今号は「サウナと手話」に関する内容が満載です。

Page 10 <http://www.plusvoice.co.jp/>

フィンランド福祉産業機器展 出店
 この福祉機器展は、山形市とフィンランドが連携しているITなどを活用した付加価値の高い福祉機器の
 研究開発を行うフィンランド福祉機器センタープロジェクトを推進するために、フィンランド企業と在
 留企業等による異文化ビジネスマッチングの場として開催されるものです。

日時 2005年2月10日(金) 10:00~17:00
 場所 AER5館 多目的ホール

電気新聞 04年2月16日掲載

仙台-フィンランド福祉産業機器展

NECトキモなど37社、1200人動員
 ハイテク駆使したソリューションPR



【仙台-フィンランド福祉産業機器展】開催のご案内 URL
 1月26掲載 03年10月31日掲載
<http://www.sincity.sendai.jp/sangoshinko/fwbo/2004/040120kkiten>

KDDI株式会社 手話サポートauショップ

auショップで販売し、電話販売業者とショップスタッフの顔を見、プラスフォイスのスタッフがテレビ
 電話システムを利用して、ユーザーの手話やauショップの録音音、プラスフォイスのスタ
 ッフが音声で読み上げたり、手話で表現したりします。
 また、手話のわからない通信販売業者はショップスタッフの録音言葉をパソコンのディスプレイ上
 にタイピングし、正確な発音録音を行うことも可能です。

【現在までの流れ】

2002年12月 auショップ大手町店にてトライアル開始
 2003年02月 10店舗展開 関東11店舗に
 2003年02月 全国展開 関東16店舗に
 現在全国展開に向け準備中
 KDDIau URL: <http://www.au.kddi.com/>



【参考】手話サポートニュースリリース URL
 1月26掲載 03年10月31日掲載
http://www.kddi.com/corporate/news_release/fako2003/0203/index.html

KDDI株式会社
 沖縄セルラー電話株式会社

No.2003-20

2003.2.3

auショップにおけるテレビ電話を使用した
 手話サポートサービスのトライアル開始について

KDDI 沖縄セルラーは、福祉のソリューション事業を手掛けるプラスフォイス社(本社宮城県仙台市、社
 長三浦宏之)の協力のもと、テレビ電話を使用した手話サポートサービストライアルを、本日より首都圏の
 主要店舗で開始します。
 携帯電話が音声通話のみならず、メール等のデータ通信機能を拡張するのに伴い、障害に障害のある
 お客様への利用が増加していますが、本サービスの導入により、聴覚に障害のあるお客様が、店舗の
 様々なサービスが利用できること、また、接客スタッフも、お客様の「お言葉」を正確に聞き取ることが可
 能となります。

詳細は別紙をご参照下さい。

ベンチャーフェアJAPAN2004 出展

ベンチャーフェアJAPAN2004は、ベンチャー企業の新規売上高を伸ばすためのサービスやノウハウを
 ベンチャー企業間の競争優位の増加やベンチャー企業家の人材の掘り起こしを図るとともに、ベンチャ
 ー企業のマーケティング活動を支援し活性化を図るための開催が行う日本最大級のベンチャー企業イ
 ベントです。
 プラスフォイスは企業間のサービスである「窓口サポート」「コールセンター業務代行」のデモン
 スレーションを企画しました。
 出展日: テレビ東京「ワールドビジネスサテライト」にてプラスフォイスが紹介されました。

日時 2004年1月21日(金)~22日(木) 10:00~17:00
 場所 東京国際フォーラム 展示ホール1・2
 PCベンチャーフェアJAPAN2004 URL
http://www.vf2004.com/vf2004_01.html



【参考】ベンチャーフェアJAPAN2004 URL
<http://www.vf2004.com/>

東北ニュービジネス大賞 大賞受賞

東北ニュービジネス大賞とは、東北地域におけるニュービジネスの起業家精神の高揚とニュービジネス
 事業の発展に資するため、社団法人東北ニュービジネス協議会が発行しています。
 プラスフォイスが大賞を受賞し、下記の目録で表彰式が行われました。

表彰式 日時 平成16年1月27日(火) 15:00~16:30
 場所 仙台エクセルホテル東急 3階(ホールムーンA)
 東北ニュービジネス協議会 URL: <http://www.tnib.or.jp/nbpage.htm>



プレゼンテーションの様子



【参考】第10回東北ニュービジネス大賞決定 URL
<http://www.tnib.or.jp/08info/topic17.htm>

平成30年10月1日より施行される、日本初の自動車保険プロアラム

「アイドラ自動車保険」

家族総合自動車保険



24時間365日、バリアフリーの事故対応をお届けいたします。

「アイドラ自動車保険」はお客様にさらなる

充実の総合補償

1 **人身傷害補償**

2 **対人賠償・対物賠償**

3 **車両保険**

4 **特約と費用特約**

5 快適なカーライフをお届けいたします。

保険料優遇制度 10.0%引

バリアフリーの事故対応

特約アットサービス

ロードサービス

けん引サービス

緊急修理サービス

1000 年経ても 最新 最新の 最新 最新 最新

今週 7/24 7/27

アイドラ自動車保険

アイドラ自動車保険

アイドラ自動車保険

アイドラ自動車保険

アイドラ自動車保険

5 資料(商品)

National

「けむり当響のあかり
なつ当響のあかり」

安心を照らすのも、
万一を知らせるのも、
ナンコナルです。

ナショナル

けむり当響のあかり

普段は明るいつインゾ。もしもを「音」と「光」でお知らせ。

煙も感知すると

警報音が鳴り始めると知らせ、目覚まし機能もあかり。

目覚まし機能、定時、目覚ましのあかり。

フインゾのあかり

デザインも、雰囲気、豊富なバリエーション。

施工例

既設からも、埋も一早くお知らせ、あかりと住宅用火災警報器の一体型。

けむり当響、なつ当響のあかり

明るく、長寿命なスリム、火を使う場所だからこそ、安心を。

煙も感知すると

あかりと住宅用火災警報器の一体型、デザインも豊富、豊富なバリエーション。

火災以外の煙を感知するお守りのあかりは、お守り機能に搭載されています。

ご存知ですか？

火災は、住宅に発生、犠牲の多い逃げ遅れです。

燃焼発生が検知された瞬間から、煙を感知して知らせることで、逃げ遅れを防ぎます。

燃焼発生から逃げ遅れを防ぐには、煙を感知して知らせる必要があります。

逃げ遅れを防ぐには、煙を感知して知らせる必要があります。

逃げ遅れを防ぐには、煙を感知して知らせる必要があります。

製品の特長

燃焼発生が検知された瞬間から、煙を感知して知らせることで、逃げ遅れを防ぎます。

燃焼発生から逃げ遅れを防ぐには、煙を感知して知らせる必要があります。

逃げ遅れを防ぐには、煙を感知して知らせる必要があります。

逃げ遅れを防ぐには、煙を感知して知らせる必要があります。

2005 自立コム 総合カタログ

聞こえの不安な方々の自立を支援する商品をお届けします

アラウットXL 80 高齢者・聴覚障害者専用機

高齢者や聴覚障害者の方々が電話をかける際、聞き取りにくいという悩みを解決する専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

ワンタッチ 高齢者・聴覚障害者専用機

ワンタッチで通話できる専用機です。通話開始ボタンを押すだけで通話が始まり、通話終了ボタンを押すだけで通話が終了します。通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

リモートスピーカーホン 高齢者・聴覚障害者専用機

通話中の音声をスピーカーから再生する専用機です。通話相手の声がクリアに聞こえ、聞き取りやすいです。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

マリンガ 電話音質増強機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

マイナガ 高齢者・聴覚障害者専用機

ワンタッチで通話できる専用機です。通話開始ボタンを押すだけで通話が始まり、通話終了ボタンを押すだけで通話が終了します。通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

コーラルアーク100 電話音質増強機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

エーバーマンリンガ 電話音質増強機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

T-リンク & M-リンク T-コイル&M-コイル

T-リンク、M-リンクは、聴覚障害者の方々が電話をかける際、聞き取りにくいという悩みを解決する専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

コンタクト型電話器

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

高齢者・聴覚障害者専用ハンズフリーキット

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

ビッグタイム 高齢者・聴覚障害者専用機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

ハイアタイム 高齢者・聴覚障害者専用機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

アイワフェー 高齢者・聴覚障害者専用機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

シェイクアウェイク 高齢者・聴覚障害者専用機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

ハイアライトク 高齢者・聴覚障害者専用機

通話相手の声を聞き取りやすくするための専用機です。音声の遅延や音質の劣化を防ぎ、聞き取りやすい音で通話できます。また、通話中の音声を録音し、後で確認できる機能も搭載しています。

株式会社自立コム

**二重用
下取り** りゆう者、難聴者、中絶失聴者の皆様へ
情報保障・コミュニケーション保障ツール

視覚と聴覚の両方から情報を得ることができ、音声と文字の両方でコミュニケーションがとれるツールです。また、音声と文字の両方でコミュニケーションがとれるツールです。また、音声と文字の両方でコミュニケーションがとれるツールです。

「二重用下取り」は、視覚と聴覚の両方から情報を得ることができ、音声と文字の両方でコミュニケーションがとれるツールです。また、音声と文字の両方でコミュニケーションがとれるツールです。また、音声と文字の両方でコミュニケーションがとれるツールです。

【ご検討のお願い】

聴覚・聴覚障害者情報提供施設の方へ
上記のツールなどは、聴覚障害者情報提供施設の方へ提供していただく。方への提供は、聴覚、中絶失聴者などへの情報とコミュニケーションに活用できるようにしてください。

聴覚・聴覚障害者の方へ
上記のツールなどを活用する際に、方への提供は、聴覚、中絶失聴者などへの情報とコミュニケーションに活用できるようにしてください。

聴覚・聴覚障害者情報提供施設
聴覚障害に関する総合情報「いくおー」編集部
〒104-0001 東京都中央区 3-3-3 OF
TEL/03-3382-3324 FAX/03-3382-6605
E-mail: info@iokoo.jp

National

改正消防法により、
住宅火災による犠牲者を減らすために、
住宅用火災警報器の設置が義務化されます。

改正消防法により、住宅火災による犠牲者を減らすために、住宅用火災警報器の設置が義務化されます。

火災による死者の急増に動員された住宅用火災警報器。

法制化の背景

火災による死者の急増に動員された住宅用火災警報器。

住宅において住宅用火災警報器の設置が義務化されます。

消防法により、

- 住宅火災死者の削減は重要であり、犠牲者の減少が求められます。
- 消防法による火災一掃の義務化が求められます。

戸建て住宅と共同住宅には、

住宅用火災警報器の設置を義務化。

(住宅用火災警報器の設置が義務化されます。)

私下電工の住宅用火災警報器は業界統一のラインアップ。

業界統一の規格に準拠した住宅用火災警報器のラインアップ。また、業界統一の規格に準拠した住宅用火災警報器のラインアップ。また、業界統一の規格に準拠した住宅用火災警報器のラインアップ。

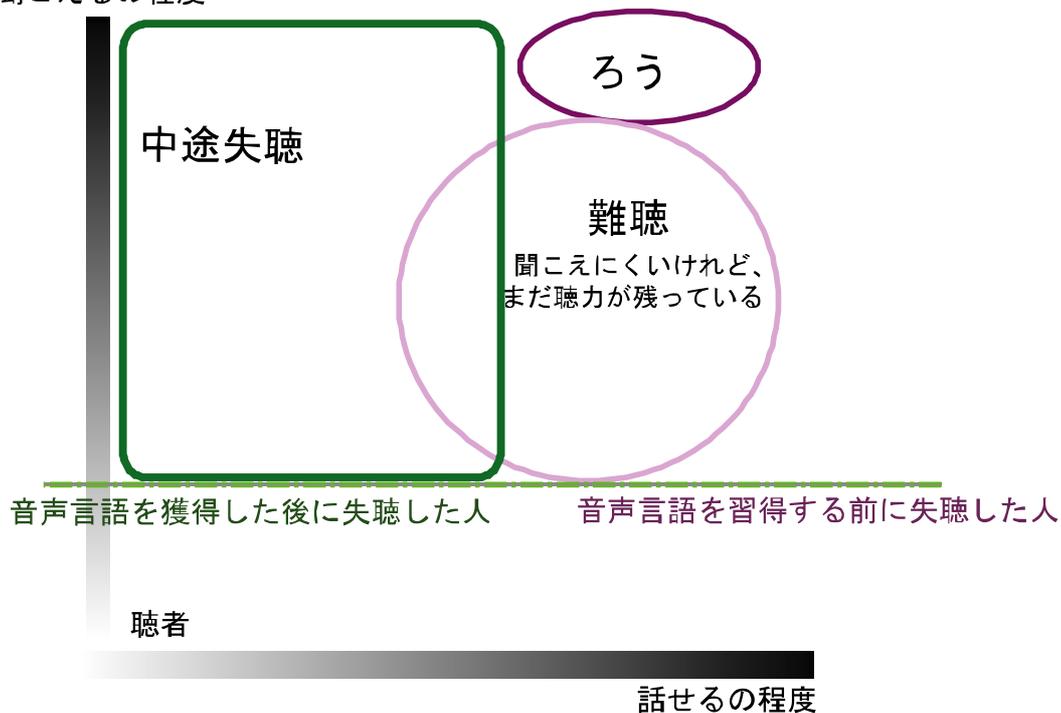
品名	特徴	価格
住宅用火災警報器	音と光で知らせる	1,500円
住宅用火災警報器	音と光で知らせる	1,800円
住宅用火災警報器	音と光で知らせる	2,000円
住宅用火災警報器	音と光で知らせる	2,200円
住宅用火災警報器	音と光で知らせる	2,500円

※価格は税別です。

6 障害の区分・程度

聴覚障害者に関して

聞こえるの程度



原因

先天的 聴覚組織の奇形
妊娠中のウイルス感染

後天的 突発性疾患
薬の副作用
外傷
高齢化

種類

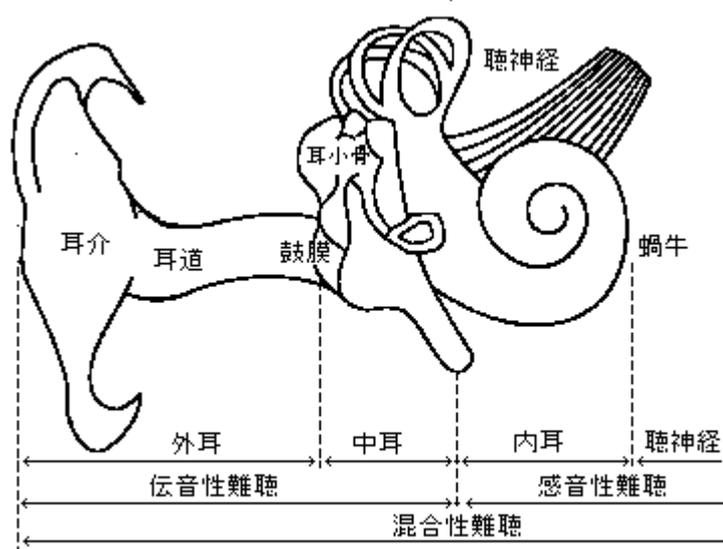
伝音性 外耳・中耳の障害による難聴
補聴器などで音を大きくすれば、
比較的よく聞こえるようになる

感音性 内耳・聴神経・脳の障害による難聴
老人性難聴も感音性難聴の一種
補聴器などでもうまく聞こえない

混合性

聴覚障害者の基礎知識(京都難聴者協会青年部ホームページより抜粋)

耳の構造と音の伝わり方



(シーメンス社カタログより抜粋)

耳介(じかい)……………音(空気の振動)を集める。

外耳道(がいじどう)……………音を鼓膜に導く。

鼓膜(こまく)……………音を受けて薄い膜が振動する。

耳小骨(じしょうこつ)……………ツチ、キヌタ、アブミの3つの骨が鼓膜の振動を内耳に伝える。

蝸牛(かぎゅう)……………内部がリンパ液で満たされていて、音の振動を電気信号に変える。

聴神経(ちょうしんけい)……………音を電気信号によって脳に伝える。

脳:聴覚中枢(のう:ちょうかくちゅうすう)……………音や言葉を認識する。

聴覚障害の原因と種類

- 障害者の定義 -

障害者基本法では、「この法律において”障害者”とは、身体障害、知的障害又は精神障害があるため、長期にわたり日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける者をいう」としている。国際障害者年行動計画(1980年)には、「障害者は、社会の異なったニーズをもつ特別の集団と考えられるべきではなく、通常的人間的なニーズを満たすのに特別の困難を持つ普通の市民と考えられるべきなのである」とある。

障害者と健常者は同じ権利を有する住民であり、対等な立場で社会参加する一人として障害者を支援する時代へと、国の考え方も大きく変化してきた。

聴覚障害の原因と種類

- 聴覚障害の原因 -

聴覚障害になった時期により、先天的、後天的に分類される。

・先天的・・・聴覚組織の奇形や、妊娠中のウイルス感染(特に風疹)などで聴覚系統がおかされた場合

・後天的・・・突発性疾患、薬の副作用、頭部外傷、騒音、高齢化などによって聴覚組織に損傷を受けた場合

- 聴覚障害の種類 -

聴覚障害になった部位により、伝音性難聴、感音性難聴、混合性難聴に分類される。

・伝音性難聴・・・外耳、中耳の障害による難聴(音が伝わりにくくなっただけなので、補聴器などで音を大きくすれば、比較的よく聞こえるようになる。治療によって症状が改善される場合もある。)

・感音性難聴・・・内耳、聴神経、脳の障害による難聴[老人性難聴も感音性難聴の一種。](音が歪んだり響いたりしていて、言葉の明瞭度が悪い。補聴器などで音を大きくして伝えるだけではうまく聞こえない。補聴器の音質や音の出し方を細かく調整する必要がある。)

・混合性難聴・・・伝音性難聴と感音性難聴の両方の原因をもつ難聴

- 聴覚障害者とは -

聞こえの不自由な人を聴覚障害者と言うが、聴覚障害の原因や種類、聞こえの程度が様々なため、聴覚障害者を分類し定義することは非常に難しい。聴覚障害者は、「中途失聴者」、「難聴者」、「ろう(あ)者」に分かれるが、その人がどれに当たるかは、その人自身がどう思っているかというアイデンティティの問題でもある。

「中途失聴者」と「難聴者」の両方を含む広い意味で「難聴者」という場合がある。

・中途失聴者・・・音声言語を獲得した後に聞こえなくなった人で、まったく聞こえない中途失聴者でも、ほとんどの人は話すことができる。

・難聴者・・・聞こえにくいけれど、まだ聴力が残っている人。補聴器を使って会話できる人から、わずかな音しか入らない難聴者まで様々。

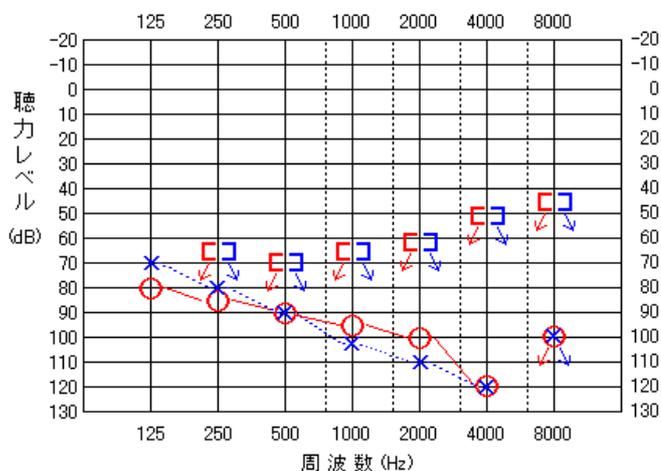
・ろう(あ)者・・・音声言語を習得する前に失聴した人で、そのため、手話を第一言語としている人がほとんど。

聞こえの程度分類

- 聞こえの程度 -

聞こえの程度は、オーディオメーターという測定器を使って検査する。聴力レベルは、音の強さを示すデシベル(dB)という単位を使って、オーディオグラム(聴力図)に書き表す。(縦軸はdB(デシベル)で音の大きさを表す。正常値が0で、数値が大きいほど大きな音になる。横軸はHz(ヘルツ:周波数)で低い音から高い音を表す。)

これにより、聞こえの程度や障害部位(外耳、中耳、内耳など)を知ることができる。正常聴力の場合は、0dB 近辺であり、難聴の程度が強くなるほどこの値が大きくなる。通常 30dB 以上が「軽度難聴」、50dB 以上が「中度難聴」、70dB 以上が「高度難聴」、100dB 以上が「ろう」とされる。



聴力	実際の聞こえ具合	聞こえの程度	難聴の程度
0dB	健聴者が聞き取れる最も小さい音		正常
20dB		会話が聞き取り難かったり、間違えることがある程度	
30dB			軽度難聴
40dB	静かな会話	普通の話し声がやっと聞き取れる程度	
50dB			中度難聴
60dB	普通の話し声	大声で話せばなんとか聞き取れる程度	
70dB			高度難聴
80dB	大きな声の会話	電車がホームに入る音が感じられる程度	
90dB	怒鳴り声や叫び声		ろう
100dB	耳元での叫び声		
120dB	かなり近くからのサイレン	飛行機の爆音が感じられる程度	

参考資料

- 身体障害者福祉法における聴覚障害者の程度等級 -

日本では、聴力レベル 70dB 以上から身体障害者手帳の交付ができる。手帳交付を受けている聴覚障害者は、全国で約 36 万人とみられている。しかし、国連の世界保健機構 (WHO) では 41dB から補聴器の装用が推奨されるとされており、この基準に基づくと 600 万人にのぼるとみられる。

聴覚障害のみの場合は、最も重度なものでも障害者程度等級は2級までとなる。ろう(あ)者は、言語障害が加わると、1級に認定される場合がある。

障害者 程度等級	判定基準
2級	両耳の聴力レベルがそれぞれ 100dB 以上のもの(両耳全ろう)
3級	両耳の聴力レベルが90dB 以上のもの(耳介に接しなければ大声語を理解し得ないもの)
4級	1. 両耳の聴力レベルが 80dB 以上のもの(耳介に接しなければ話声語を理解し得ないもの) 2. 両耳による普通話声の最良の語音明瞭度が 50% 以下のもの
6級	1. 両耳の聴力レベルが 70dB 以上のもの(40cm 以上の距離で発声された会話を理解し得ないもの) 2. 一側耳の聴力レベルが 90dB 以上、他側耳の聴力レベルが 50dB 以上のもの

(注)

1) 同一の等級について二つの重複する障害がある場合は、1級上の級とする。ただし、二つの重複する障害が特に本表中に指定されているものは、該当等級とする。

2) 異なる等級について二つ以上の重複する障害がある場合については障害の程度を勘案して、当該等級より上の級とすることができる。

(身体障害者福祉法施行規則別表第5号「身体障害者障害程度等級表」より)

聴覚障害者のコミュニケーション手段

聴覚障害者のコミュニケーション手段は、同じ聴覚障害者でも、その人の失聴年齢、残存聴力、言語力、読話力、発語力、教育歴、家庭環境などによって異なる。一般的には、聴覚障害者だから手話ができると思われがちだが、手話を習得していない聴覚障害者も大勢いる。聴覚障害者は、一つのコミュニケーション手段だけでは、十分な情報を得ることができない。補聴器で聞きながら読話もする。講演会などでは、要約筆記のスクリーンを読みながら、手話通訳が付けば手話にも目を走らせ、磁気ループや赤外線補聴システムがあれば補聴器でも聞く。このように可能な限りの方法で、少しでも聞こえを補い情報を得ようとしている。

- ・ 補聴器・・・少しでも聴力が残っていれば、補聴器で音を大きくして、残存聴力を最大限に使う。単に音を大きくするだけのものであり、言葉の識別を助けるものではない。最近では、一人一人の聞こえる音域の音を大きくできる性能の良いものも開発されてきている。また、デジタル化により何種類かのプログラムを持ち、聞く環境によって自動的に選択できて、より自然の耳に近い機能を持つ補聴器ができてきた。それだけに調整が複雑になり、値段が高くなって、新しい問題も生まれている。自分にあった補聴器を選んで正確にフィッティングをし、聞く練習をして、補聴器に慣れることが必要。
- ・ 人工内耳・・・人工内耳の仕組みは、簡単に言うと、スピーチプロセッサという機器で音を電気信号に変換し、手術によって内耳の蝸牛に埋め込まれた電極に送る。それが聴神経に伝わり、脳で音を解読する。人工内耳は入院して埋め込み手術する必要があるが、1994年から健康保険が適用になり、急速に広がった。2000年3月の時点で、全国で人工内耳の手術が行われる病院は54ヶ所、約1400人が手術を受けている。個人差はあるが、補聴器では音声の識別が不可能であった人も中軽度の難聴者の聴力レベルに戻れるようである。しかし、効果のない人も例外的にある。
- ・ 補聴援助システム・・・マイクの音声を補聴器や人工内耳で聞きやすくするシステム。補聴器も人工内耳も機械で音を伝えるため、自然の耳のように、聞きたい声だけを取捨選択するという能力を持っていない。騒音など不必要な音も大きくなり、距離の離れた音源を捉えにくい。このために、補聴援助システムが必要。補聴援助システムは、マイクからの音声を伝えるので、音源を耳元に近づけると同じ効果があり、聞きやすくする。

視覚から得る情報

耳から情報が入り難い聴覚障害者にとって、視覚からの情報はとても重要。聴覚障害者は、目で「聞く」。マスメディアの情報・新聞や各種書物・テレビ字幕・文字表示装置等が主な情報源になる。

- ・ 手話・指文字・・・手の位置や動き、顔の表情等で意思を表現。目で見える言葉。ろうあ者の生活の中から生まれた日本手話は、独自の文法や語彙を持っている。今は日本語対応の手話もある。指文字は、五十音・アルファベット・数等を指の形で表すもので、手話の補足に使う。
- ・ 読話(読唇)・・・話し手の唇や舌の動き、顔の表情から話の内容を読みとる。読話だけで理解するには訓練と天性の勘が必要だが、中途失聴・難聴者は自然に読話を取り入れて聞こえを補っている。
- ・ 筆談・・・口で話す代わりに、大きめのメモ用紙に文字を書いて意思を伝え合う。健聴者、聴覚障害者双方にとってコミュニケーションの正確度が高い手段。
- ・ 要約筆記・・・健聴者が聞き取った話の要点を、聴覚障害者に文字で伝える通訳。OHP(オーバー・ヘッド・プロジェクター)やOHC(オーバー・ヘッド・カメラ)を使って、3～4人で交替しながら書いていく手書き要約筆記と、ノートパソコンを使ってキーボードで打ち込むパソコン要約筆記がある。また、より確かな情報を伝えようと始まった「二人書き」要約筆記も広がってきている。他に、紙やホワイトボードを使ってノートテイクする方法もある。
- ・ その他・・・視覚による情報伝達の手段としては、FAX、携帯電話による文字メール、パソコン通信(チャット)、インターネットによる電子メール/電子掲示板など。FAXは社会に定着し、聴覚障害者は電話代わりに重宝している。パソコン通信のチャットでおしゃべりを楽しんだり、携帯電話やインターネットによるEメール(電子メール)の交換も、聴覚障害者の間で利用が多くなってきている。また、テレビ電話を利用したおしゃべりも実用化になりつつある。

マスメディアから得る情報

- ・ 字幕・・・一般向けテレビ・ビデオ・映画・劇場等に字幕を付ければ、聴覚障害者も楽しむことができる。アメリカではテレビ番組の約95%が字幕付きだが、日本では数%である。全難聴が中心となった字幕推進運動による成果として、国会で字幕対策が予算化され、テレビ局も少しずつ前向きに字幕化に取り組むようになってきている。字幕でテレビを楽しむには、文字放送デコーダか内蔵型テレビが必要。最近では、音声変換によるリアルタイム字幕も実現されている。
- ・ その他・・・初めから文字で提供されるものとして、文字(字幕)放送、見えるラジオ、携帯電話による文字ニュース、インターネットによるホームページ等がある。電光掲示板は、新幹線内の文字ニュースや、バス・電車内での停車駅の案内等色々なところに普及してきて、聴覚障害者には便利になっている。他に、情報提供施設による字幕入りビデオの貸出などもある。